

新たな道路で描く 未来の都市づくりシンポジウム 主催／熊本都市道路ネットワーク検討会(国土交通省熊本河川国道事務所・熊本県・熊本市・熊本商工会議所)



熊本市の道路交通のデータを見ると、残念ながら「ひどい渋滞が発生している」と言わなければなりません。「平均速度」「渋滞地点数」「主要駅と最寄りの高速道路インターチェンジ間の所要時間」「空港から都心部への移動時間」これらにおいて、3大都市圏を除く政令指定都市の中で、熊本市は全て「ブリストワン」となっています。

熊本は渋滞が激しく、中心部から空港までの移動の時間が読めない」と言われます。

そこでJＲ熊本駅と阿蘇くまもと空港間の所要時間を調べた調査をしてみると、「43分」で行けるとともにあれば、63分、かかることもあろうです。約20分のはらつきがあり、飛行機に乗り遅れないよう、移動時間を長めに想定しなくてはならないのです。

東京から日帰りの出張で「熊本」と「福岡」を訪れる際の

パネルディスカッション 「道が拓(ひら)く、熊本の未来」

パネリストディスカッションのテーマは「道が拓(ひら)く、熊本の未来。熊本学園大学シニア客員教授の坂本正氏がコーディネーターを務め、熊本商工会議所会頭の久我彰登氏、郷土料理店「青柳」女将の倉橋恭加氏、熊本大学准教授の円山琢也氏、国土交通省熊本河川国道事務所長の鈴木学氏、熊本県副知事の田嶋徹氏、熊本市長の大西一史氏の6人のパネリストによる意見交換が行われた。

◇ 元号が令和になり、新しい時代を迎えました。本日は熊本の未来を見据えた道路の在り方について、皆さんと話し合いたいと思います。まず熊本の道路の現状について、どんなことを感じますか。

倉橋 県外からのお客さまから「熊本は素晴らしい」「おいしいものが多い」などのお言葉をいただきます。しかし、実は予約の時間に遅れてご来店されるケースが少なくないのです。その理由の多くは交通渋滞です。最初のお客さまのご来店が大幅に遅れると、次の時間帯に予約のお客さまをお待たせしてしまいます。それが引いては、熊本の印象を悪くするのではないかと心配しています。

久我 最近博多港が混雑

していることから、熊本港の価値が見直されています。その一方で熊本港までの道路が渋滞するという指摘もありました。熊本港の高評価が一時的なものにならないよう、また企業誘致のためにも、渋滞の緩和は大きな課題です。

大西 目的地点までの所要時間が想定できない現状を変えなければなりません。財源は必要ですが、市電のほかに専用軌道を走るバス(BRT)や高架道路を整備して一般道との使い分けができるなど、交通の選択肢を増やす方向を目指したいと考えます。

田嶋 県は熊本の拠点性と九州全体のポテンシャルを高めようと、九州の主要都市を150分で結ぶ構想などを進め、大分市から中九州横断道路や、宮崎県延岡市からの九州横断自動車道延岡線などの整備のほか、JＲ豊肥線の空港までの延伸を計画しています。熊本市圏の北部地域では企業立地が進み、多くの雇用が生まれましたが、熊本市から企業集積地に向かう道路では、朝夕の時間帯に渋滞が発生するようになりまし

た。熊本市と連携して今後課題に取り組みしていきます。

鈴木 およそ20年前に計画した九州の高速自動車道路の整備は完成までもうしばらく

インターネット通販が盛んになれば、それだけトラック輸送のニーズは高くなり、「物流を支える道路」を目指すことが求められます。また、熊本地震の際に皆さんが実感したように、災害時に緊急車両が通行できる「災害に強い道路」を整備する視点もとても大切でしょう。

熊本の魅力をあらためて挙

げると、①九州の中心に位置、②歴史と自然に恵まれた城下町、③地震から復興するJＲ熊本駅周辺や桜町再開発地区、④インバウンド(訪日外国人客)の増加傾向、など考えます。こうした魅力

を道路の渋滞で損なうことのないようにしなければなりません。

熊本市の大西市長は6月、

自動車のことだけを考えるのではなく、公共交通、歩行者、自転車にもやさしい道を整備し、それが最適化した「交通のベストミックス」をつくり出すことが求められます。将来を見据えて、皆さんで考えることが大切です。

次世代へつなげくまもとの道

熊本市圏の新たな道路交通網について考える「新たな道路で描く未来の都市づくりシンポジウム」が8月28日、熊本市国際交流会館で開催された。主催は国土交通省熊本河川国道事務所、熊本県、熊本市、熊本商工会議所で作る「熊本都市道路ネットワーク検討会」。

県立熊本北高校の生徒が熊本の道路の現状と未来像を発表。熊本大学准教授の円山琢也氏が問題提起のための講演を行い、国、県、熊本市、経済団体代表者らによるパネルディスカッションが行われた。

問題提起 「熊本のポテンシャルと交通課題」



熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター准教授 円山 琢也氏

熊本のポテンシャルと交通課題



「未知の道づくりを考える～未来の熊本」 熊本北高校

街づくりの柔軟なアイデア披露

「未知の道づくりを考える～未来の熊本」と題し、熊本北高校理科(スーパーサイエンスハイスクールに指定)の生徒7人が登壇。授業の一環としてまとめた熊本の道路交通状況の課題や解決策などを、独自の視点で発表した。

「熊本市は渋滞が激しく、都市高速道路などが整備されている福岡市と比較して、大きな差が見られる。交通手段が限られ、自家用車の利用が多いことが背景にある」と指摘。そうした現状に対し生徒らは、生活者や熊本を訪れる人たちのために、交通手段を増やし、駅や空港などから市街地や観光地への交通アクセスを向上させることが大切と主張した。また、「おいしい水」「豊かな自然」などの「未来へつなぐ空間」を残していくことも重要と付け加えた。

生徒らは「私たちが描く未来の熊本の姿」として、手書きの絵をスクリーンに投影しながら紹介。「自動車専用道路で渋滞を解消したい」「歩道を高架化して広場を整備、先端技術を活用した観光案内を行う」「地下は歩行者が安全に通行しやすい空間にし、地下水に触れられる小川を設ける」「川では船を行き来させ、観光面に活用する」「動く歩道では、季節ごとに天井や壁のデザインを変える」など、高校生ならではの柔軟なアイデアを披露した。

最後に大西市長も登壇。「渋滞という課題に対し、斬新な発想によるアプローチに感心した。将来のまちづくりに生かしていきたい」と話した。

熱心に耳を傾ける人々で満席となった会場(熊本市国際交流会館)

和元年が熊本の転換の年だったと言えるよう、経済界、行政、市民が連携して意見を出し合ってもらいたい。特に、若手行政職員の方は、後で自分の仕事を誇れるよう、頑張ってもらいたいとすね。

鈴木 新たな道路整備計画案を作成するには国と県、熊本市の各行政と地元経済界、市民の連携が重要ですが、中でも、熊本に住み続ける人の意見や夢を大切にしなければならぬと思います。

大西 新しい都市空間、新しいまちづくりを考え、皆さんとあるべき姿を共有して中期的、短期的に取り組むか、意見をまとめ、計画を進めます。今後実用化が進む自動運転車や新しい交通サービスを見越した最新の道路に関する、社会の変化に対応してビジネスチャンスにつながる、先進的な発想を取り入れた計画にしたいと思っています。

坂本 大西市長のお話は夢ではなく、現実味のある話です。市民の皆さんもいろいろな意見をお持ちでしょう。これからの熊本の道路整備について関心を寄せていただきたいと思います。